

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	・学習活動や学校行事、生徒会活動等の充実 ・アンケートによる調査	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度より本校独自の教育ビジョンである、「SPARK for our well-being!」を掲げ、「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を最上位目標として定め、学校生活全般において、生徒が主体となって活動し、活躍できる場が大幅に増えた。 部活動に所属する生徒は熱心に活動し、本年度も多くの部活動で各種大会、競技会等で成果を上げることができた。しかし、部活動加入数の減少、途中退部する生徒の増加などが課題として出てきた。生徒が3年間継続できる部活動選択を促していく。 市立学校としての意義を捉え直し、地域への貢献を念頭に置いた活動が積極的に行えた。特に、地元企業と連携した商品開発を行ったり、企業の課題解決に生徒がアイデアを出したり、地元企業の皆さんの協力を受け、学習活動の様々な場面で地域を意識した活動が行えた。次年度以降も同様の取り組みを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> この1年で学校が大きく変化した。SNSなど広報活動に力を入れており、SPARK講演会は生徒・保護者ともに有意義であった。 部活動に関して、顧問教諭は教育活動の一環として部活動に対して意欲的に取り組んでいる。部活動が他者との関わりを積極的にもてる場面であり、その教育的価値が大きく考える。 地域に密着した取組を今後も継続してほしい。
		② 部活動を推進している本校の取り組みに所属生徒の80%以上が積極的である。	・活動状況及び大会等の成果の確認 ・アンケートによる調査	B	B	B		
		③ 市立学校として地域社会と連携した活動を積極的に行っていると感じている生徒・保護者の割合が80%以上である。	・市役所やその関連機関、地元企業等との連携の強化 ・アンケートによる調査	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業が分かりやすい」と感じている生徒の割合が80%以上である。	・きめ細かい指導の実践 ・授業アンケートによる実態把握	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を的確に捉え、授業の個別最適化を図っている。一人ひとりに寄り添った授業が展開できている。 各教科において1つ1つの学習内容の理解の定着が図られることにより、資格取得に結びついている。学習の積み重ねの成果として資格取得があり、資格取得を最終目標としないことで、より生徒の実態に即した授業づくりが可能となっている。 定期試験前の成績不振生徒に対する学年補習を継続し、学習につまづきのある生徒に対しての支援を展開する。 予習をしていると回答している生徒が50%未満である。生徒自らが主体的に学習に取り組むことができるような指導を工夫する必要がある。また、ICTの活用など、生徒の実態に合わせた課題を工夫することにより、家庭学習習慣の定着を目指す。 生徒の学習意欲を喚起できる授業づくりを目指して、授業改善推進委員会を中心に研修を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに寄り添った指導をお願いしたい。 「総合実践」における授業展開は大変興味深いものがある。地域もその活動に大いに期待している。さらなる取組の発展を期待したい。 学習習慣の定着に課題があるように感じる。生徒一人ひとりの意識に依るところが大きい。主体的に学ぶことのできる生徒の育成を目指していただきたい。
		⑤ 日々の学習の成果の一つとして、資格取得ができていると感じている生徒の割合が80%以上である。	・資格取得を最終目標としない学習指導の展開 ・アンケートによる調査	A	B	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒の割合が80%以上である。	・学習指導の充実、定期試験対策補習等の実施 ・アンケートによる調査	B	A	A		
		⑦ 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒の割合が80%以上である。	・自ら進んで学ぶとする態度の醸成を目的とした学習指導の実践 ・アンケートによる調査	B	C	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 学年会議・校務運営委員会・職員会議等において生徒に関する情報交換を行い、教職員間の情報共有、連携強化を図っている。	・職員会議、学年会議、運営委員会での情報共有 ・アンケート調査	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年会議、運営委員会、職員会議において生徒の情報共有を行い、全職員で共通認識を持って連携した指導を行っている。フォーマルコミュニケーションにとどまることなく、インフォーマルコミュニケーションの場においても積極的に情報共有を図れる環境を整えていく。 生徒が主体となって円滑かつ安全に各種委員会・行事を実施できるよう、職員のサポート体制を整える。 毎学期安全点検簿を作成し、普通教室や特別教室等の清掃状況および管理状況を把握し、危険箇所や整備不良箇所の発見、修繕を早期に実施している。 毎学期にいじめアンケートを実施し、早期発見に務めている。また、いじめと疑われる事案については、いじめ防止委員会を開催し、いじめの認知および対応の協議を行っている。 遅刻率は0.8%であり、概ね目標とした数値以内に収まっている。しかし、欠席率については、昨年の3.5%と比べると減少しものの、2.3%と目標値にはほど遠い結果となった。主な要因として、長期欠席になってしまう生徒が一定数存在することが挙げられる。悩みを抱えて登校できない生徒が長期欠席となり、その後、転退学するというケースもある。今まで以上に家庭と連携し、生徒の多様性を受容しながらの指導等、個に対応した指導を工夫していく必要がある。 90%以上の生徒、保護者が本校の生活指導は充実していると回答しており、本校の生活指導の方針や取り組みが理解されている。社会に出て行く生徒を育てる学校としての役割を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え判断し行動する」という方針を今後も継続してほしい。 教員への信頼をさらに向上させられるようにしてほしい。生徒との適切な距離感を保ちつつ、生徒から慕われるようにしてほしい。ひとりでも話せる先生がいれば、救われる生徒が増える。 学校にすべておまかせはよくない。家庭でのコミュニケーションを見直し、保護者が主体となり、「自分の子ども」という意識をもたなければならない。保護者の意識改革が必要であり、PTAとして対策を考えたい。 当たり前のことを当たり前にできるように指導してほしい。 生徒の指導には生徒指導部だけではなく、教職員全員であたってほしい。 ヘルメットの着用率が低いようである。マナーアップや命の大切さと絡めて指導を徹底してほしい。
		⑨ 生徒会行事や各種専門委員会など、生徒会活動が充実していると評価した生徒の割合が80%以上である。	・生徒会・専門委員会の充実 ・アンケートによる調査	B	A	B		
		⑩ 校内の美化・安全点検を各学期に1回以上実施している。	・施設委員を活用した校内巡視による点検後、点検一覧表の作成 ・空き教室利用や机・イス等の更新	A	A	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 学校は、「いじめ防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒の割合が80%以上である。	・いじめ防止アンケートの実施 ・教育相談アンケートの実施・面接	A	A	A		
		⑫ 家庭との連携を密にして欠席率・遅刻率が1.0%以下となっている。	・定期的な登校時指導、遅刻防止指導の実施 ・保護者への協力・支援 ・欠席・遅刻・早退率の把握 ・朝読書の実施	C	B	C		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ 挨拶や服装、遅刻防止指導など学校の生活指導は充実していると感じている生徒の割合が80%以上である。	・定期的な登校時指導、遅刻防止指導・服装指導の実施、保護者への協力および支援 ・アンケートによる調査	A	A	A		
⑭ 学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒の割合が80%以上である。		・「進路のてびき」の活用及び「進路ガイドナズ」や講演会など外部機関との連携による進路指導の充実 ・アンケートによる調査	A	A	A			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 進路通信を年間10回以上発行し、生徒・保護者へタイムリーな情報を提供している。	・定期的な「進路たより」の発行 ・3学年へは具体的情報を提供 ・アンケートによる調査	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校から提供される進路情報が役立っていると回答する生徒が90%以上いるのに対し、保護者は80%程度となっている。学校が発行した「進路のてびき」や「進路たより」が生徒から保護者へ渡っていない可能性がある。生徒へ主体的な進路選択を促すと同時に、保護者の理解、同意を得られるよう、しつこくとした情報共有をするように指導を行う。 学校から「進路たより」を中心とした情報提供を積極的に行い、早期から進路意識の醸成に努めている。結果として、主体的な進路選択が実現できている。 コロナ禍により中断されていた就業体験が本年度から再開できた。生徒にとって就業体験を中心としたキャリア教育の充実が自己の生き方、在り方に与える教育的効果は大きいと考え、今後も継続していく。 生徒の個に応じたきめ細かな進路指導が行われ、結果として計画的に進路指導が行われていると回答している生徒が90%近くにのぼった。生徒に寄り添い、3年間を見通した計画的なキャリア形成を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路の状況は就職・進学ともに素晴らしい実績を上げていることが資料からうかがえた。求人数が大幅に増えたが、志願者は横ばいであったり、指定校数が多かったりするため、安易な進路選択に陥らないように指導してほしい。 3年次になって進路を意識してから取組を強化するのではなく、1年次から「今」の学習にきちんと目を向けられるようにする。
		⑯ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について真剣に考えている生徒の割合が80%以上である。	・就業体験等によるキャリア教育の充実 ・ホームルーム活動や教科における進路学習の充実 ・アンケートによる調査	A	A	A		
	⑰ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒の割合が80%以上である。	・キャリア教育の充実 ・早期の進路目標設定と個に応じた指導の実践 ・アンケートによる調査	A	A	A			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 学年別保護者会に積極的に参加している保護者の割合が95%以上である。	・各学年保護者会、PTA主催行事等への積極的な参加及び行事内容等の充実 ・ホームページやSNS等の充実 ・地域社会への情報提供	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の精選によりPTA主催行事は数を減らしている。そうした中で学校の状況を知っていただく機会として保護者会が重要な位置づけとなるが、各学年とも保護者会出席率が概ね目標とおりの95%程度となっている。学校の状況を知っていただき、家庭と連携して生徒の望ましい育成を図るために、保護者会を出席する価値のあるものとしなければならない。 地域へ向けて本校の取り組みを広報した結果として、本校に興味を持っていただける中学生の増加につながった。また、部活動を中心として地域の諸活動へ積極的に参加することで本校の活動に評価をいただくことが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との信頼を築くために、報告・相談等をきめ細かに行ってほしい。 SPARKの影響で学校が変化している。桐生商業について良い発信をする人が増えてきている。学校がよくなっていくために、周囲の人々に桐生の良さを伝えていきたい。
		⑲ 学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業等で学校の教育活動を理解できたと感じる参加者の割合が90%以上である。	・文化部及び運動部を中心とする各種カルチャー教室の充実や地域諸行事への積極的参加 ・桐商だよりの配布 ・アンケートによる調査	A	A	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ 一人一台端末を活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	・一人一台端末の効果的な活用を目指した指導の実践 ・ICT活用に係わる研修の実施 ・校内研修テーマに基づいた授業研究の実践 ・アンケートによる調査	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、授業における効果的なICT活用が積極的に行われている。言葉では伝わりにくい内容を視覚的に提示することにより、生徒の理解が深まっている。教員側の授業改善にもつながり、今後も指導場を的確に捉えた効果的な活用を継続していく。 Webページの更新頻度を高めたり、内容の検討等を繰り返すことによりアクセス数が飛躍的に伸びた。ICTと書面の併用により、保護者が知らなかったということがなくなり、情報到達率がかなり高まったといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> Webサイト大賞や学習成果発表会などは、生徒と教員双方の頑張りがあったからこそ。引き続き取り組んでほしい。 教育活動および学校運営において、積極的なICT活用が図られている。
		㉑ すくーるや本校Webページを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・書面と併用することによる情報到達率の引き上げ ・すくーるへの登録率向上 ・アンケートによる調査	A	A	A		